

今夏の先行実施について（案）

令和2年5月27日

今夏の先行実施⁻⁹⁻についての概要

1. 対象エリア： 関東甲信地方：一都八県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県）

2. 期間： 7月～10月

3. 先行実施方法：

（1）発表形式

- ・先行実施対象エリアについて、「高温注意情報」の発表基準を暑さ指数に換え、「熱中症警戒アラート（試行）」として情報発信を行う。
（※ 先行実施対象エリア以外は、気温による高温注意情報を継続）

（2）伝達方法

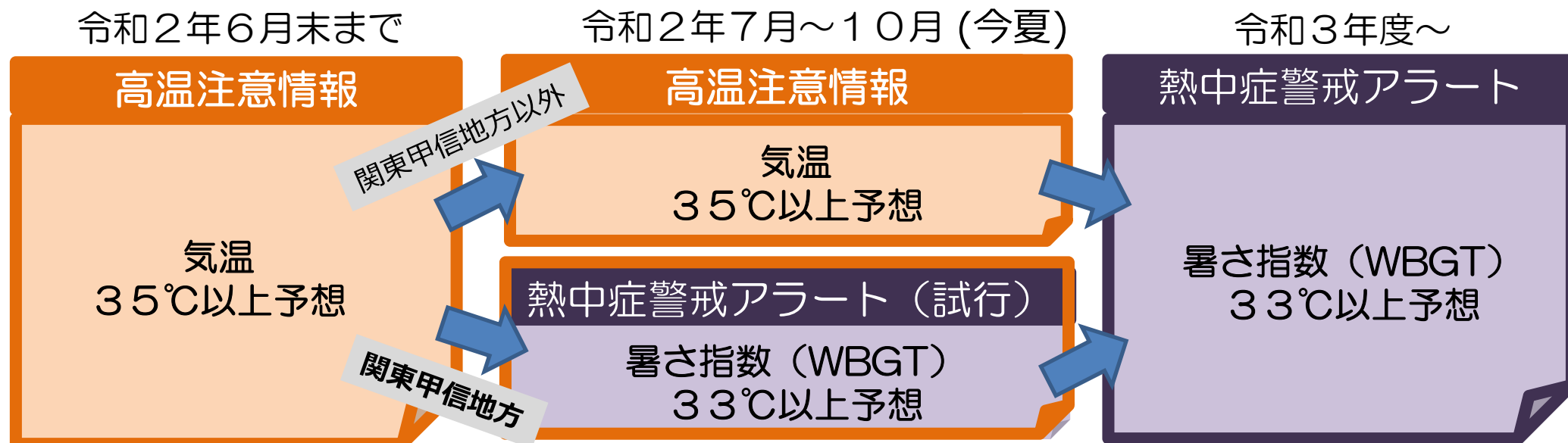
- ・既存の防災気象情報伝達の流れを使用する。

（3）先行実施に関する検証

- ・対象エリアに対しては、熱中症警戒アラート(試行)の内容、その際にとるべき予防行動等について事前に周知。
- ・対象エリアにおける自治体や教育機関等に検証に関する協力を依頼。引き受けていただけたところで検証実施。
- ・検証内容については別紙2-4参照。

熱中症警戒アラート（⁻¹⁰⁻試行）の発表と確認方法

■今後の情報発表について



※名称や発表基準等が適当であったかを検証のうえ、令和3年度から全国を対象とした配信を開始予定。

※試行では高温注意情報と同じ形式で情報を受け取れます。令和3年度からは新しい形式で配信予定。

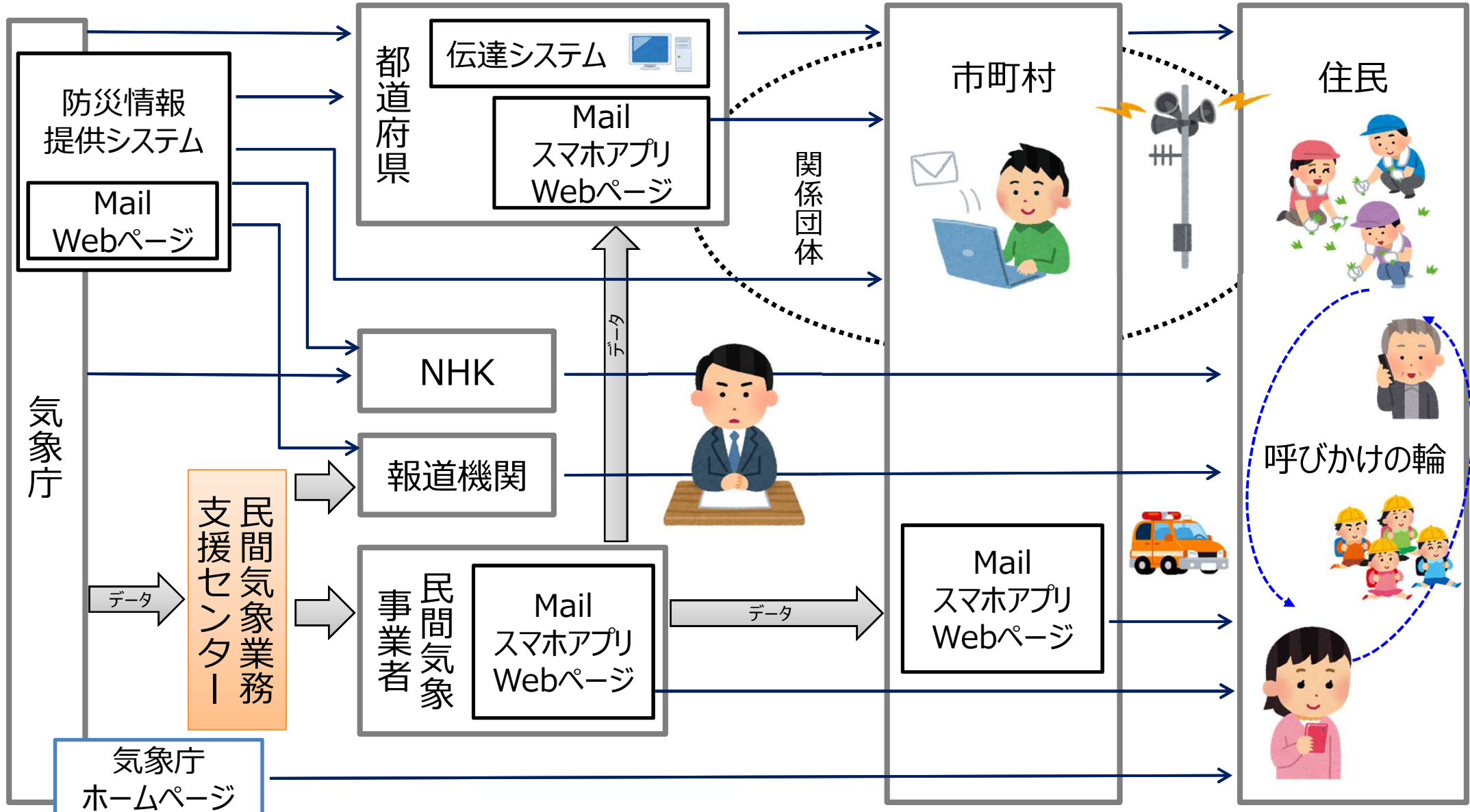
■熱中症警戒アラート(試行)の確認方法

- 前日17時頃と当日5時頃に発表されます。土日、休日でも情報が発表されます。
- 情報の流れは高温注意情報の時の流れと同じです(次頁)。
- 環境省・気象庁HPでアラートの発表状況を確認できます。
- 環境省のホームページ「熱中症予防情報サイト」では、アラート以外にも暑さ指数(WBGT)の実況・予測を常時確認することができます。



気象情報が届くまで

気象情報の流れ

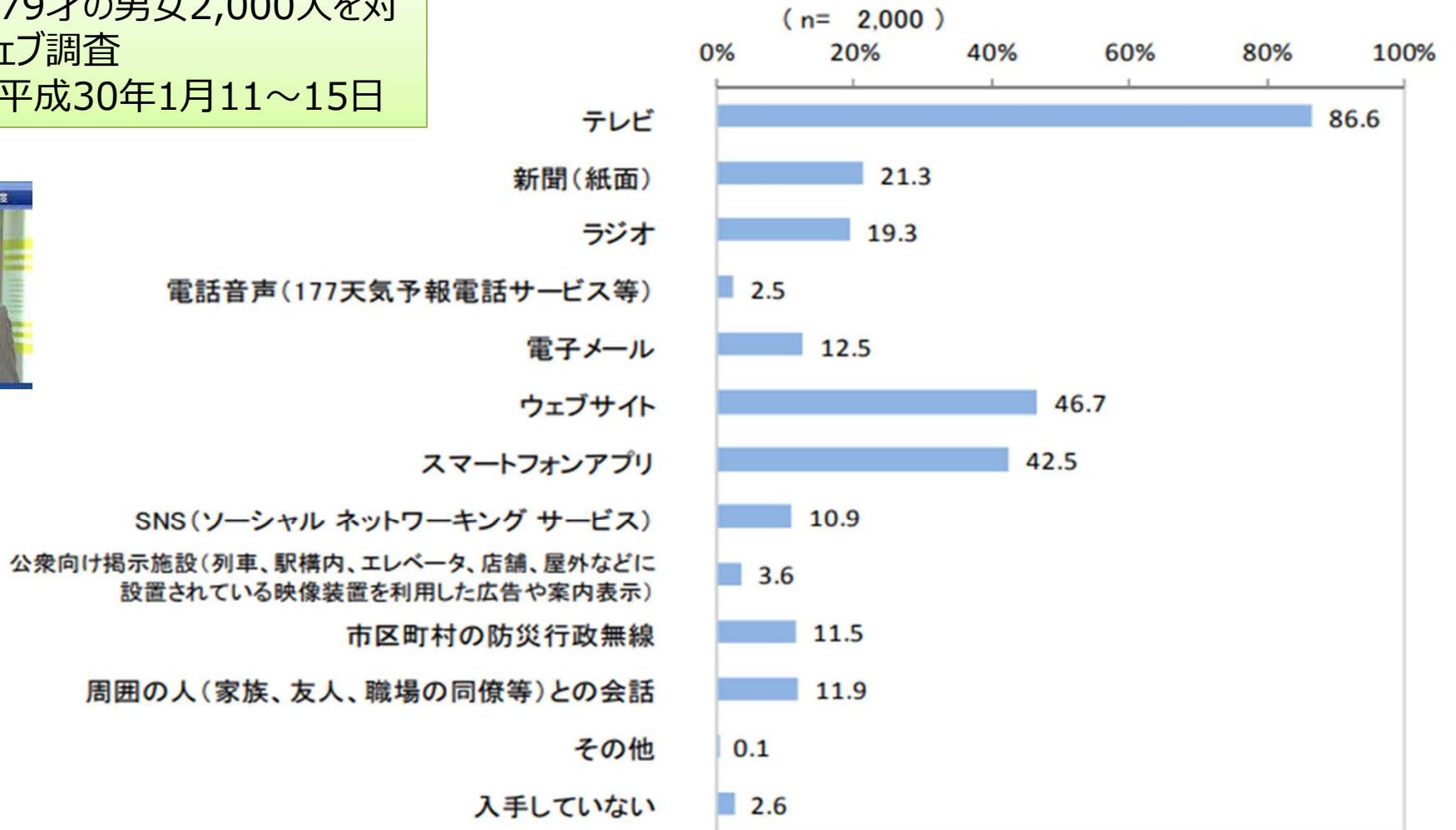


熱中症警戒アラート (試行) ,暑さ指数(WBGT)

国民の気象情報の入手手段

Q27 現在、あなたが天気予報や大雨警報などの気象情報を入手する手段は何ですか。(〇はいくつでも)

全国の20～79才の男女2,000人を対象に行ったウェブ調査
調査期間：平成30年1月11～15日



気象情報に関する利活用状況調査報告書 (平成30年3月) より引用

熱中症警戒アラート（試行）発表時の国民における行動例（案）

- 令和2年7月からの先行実施にあたって、国民の皆様にお示ししたい行動のイメージです。これを参考にして、関係省庁や関係各団体において具体的な行動に繋がる周知を進めて頂きたいと考えています。

ターゲット (場所)	手段	国民の日常生活・運動における行動例
一般国民・外国人 (公衆、住宅)	例) 防災無線	例) 涼しい部屋に移動し、エアコン等を適切に活用する。不要、不急の外出を避ける。
	例) テレビ、ラジオ、メール、アプリ、サイネージ、専用アプリ (専用アプリは、事前のダウンロード要)	例) エアコン等が適切に活用された涼しい部屋に移動する。建物や木の陰等の日射を遮れる場所もしくは涼しい屋内に移動する。移動できない場合は日射を遮り、高頻度で水分・塩分補給を行う。
高齢者・障がい者 (住宅)	例) 訪問	例) 部屋ではエアコン等を適切に活用し、定期的に水分・塩分補給を行う。 ※特に、熱中症への注意が必要な高齢者・障害者に対しては、周囲の方々が協力して注意深く見守る。
児童生徒等 (学校・幼稚園・保育園)	例) 緊急連絡 (電話、メール)	例) 学校等は、児童生徒等を涼しい屋内に誘導する。エアコン等が設置されていない屋内及び屋外での運動、校外活動等の中止・延期等を検討する。 必要に応じて、臨時休業の設定等の柔軟な対応をする。 ※特に、熱中症への注意が必要な小児に対しては、周囲の方々が協力して注意深く見守る。
選手 (スポーツ現場)	例) 緊急連絡 (電話、メール)	例) 特定の条件以外は、運動は中止する。大会の延期や見直し等も検討する。 特定の条件とは、医師、看護師、一次救命処置保持者のいずれかが常駐し、救護所の設置、及び救急搬送体制の対策を講じた場合、もしくはエアコン等が適切に活用された涼しい屋内で運動する場合。
農業従事者 (田・畑・樹園地・農業用施設)	例) 防災無線	例) 作業は日中の気温の高い時間帯を避け、作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩を心がける。吸汗速乾素材の衣服、屋内では送風機など、熱中症予防に有効な商品を活用する。単独作業を避け、定期的に異常がないか確認しあう。 ※特に高齢者は脱水しやすいため、こまめな水分と塩分の補給や休憩を行うよう、周囲の方が協力して声かけを行う。
労働者 (仕事場・工事現場)	例) 防災無線、緊急連絡 (テレビ、ラジオ、アプリ 他)	例) 事業者は、熱中症警戒アラートを受けて、各現場のWBGT値を再確認の上、作業時間の短縮や作業内容の変更等を検討する。こまめな休憩及び水分・塩分補給の徹底を図る。
避難者 (避難場所他)	例) 防災無線	例) エアコン等が適切に活用された涼しい部屋に移動する。建物や木の陰等の日射を遮れる場所もしくは涼しい屋内に移動する。移動できない場合は日射を遮り、高頻度で水分・塩分補給を行う。